垂水会

ボランティア交流会を終えて

垂水会々長(生６)　吉崎 敏男

我々のように齢を重ねてくると、それぞれが生きてきた人生の重みを背負っているため人間関係はどうしても厄介になってきます。だからこそ人との出会いを大切にしていかなければならないと思います。垂水会も行事を重ねるたびに人間関係もうまく育ち、去る6月２９日(日)、午前１１時から区内千代ケ丘福祉センターで行われた「ボランティア交流会」でも、自分達の問題として忌憚のない意見が随分たくさん出ました。これも１期生からの積み重ねがあるからこそ、と思っております。

１期生１２名、２期生５名、３期生４名、４期生８名、５期生８名、６期生１９名、７期生１５名、総勢７１名の参加を戴き会場が狭く感じられました。

午前中は各ボランティアグループの活動報告、今後の新しい活動計画案、ボランティア保険の加入の意義、等々盛りだくさんの議題でした。

昼食は会費５００円のお弁当をいただき、午後１時半解散までは懇談会として自由に意見の交換をしました。切り詰めたスケジュールで不行き届きな点が多々あったかと思いますが、ご寛恕ください。

これからも先輩方の築いた垂水会を引き継ぎ、その指針に沿いつつ新しいことにも挑戦していきたいと思っております。

ティータイム

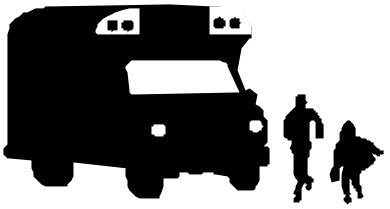
可愛い孫たち

丸山学園散歩介助

美３-兵　井内 宇一

毎週１回園児の散歩の日がある。朝９時２０分、通園バスに便乗して学園に向かう。バスには先生（保育士）が２人と子供たちが５、６人。私が乗る上沢から湊川神社～平野～夢野と廻って子供たちを拾ってゆき、全部で１０人くらいになる。お母さんと一緒の子もいるが、ほとんどはバスまで送ってもらって一人で通園している。

「オハヨウ」と云って乗り込んでも何の反応もない子が多い。それでも１人２人、にっこりしてくれる子もいる。車内では子供たちを退屈させないように先生はゲームなどして一生懸命だ。園に到着すると子供たちの準備ができるまで待つ。ボランティアの人達の数は２、３０人。年配の人もいるが、若いお母さんが多い。ちょっと不思議な気もする。



子供たちの用意ができたら予めセットされた子と手をつないで、登り口（高取山）からお地蔵さんまで遠近４コースに分かれてお散歩が始まる。子供たちの関心を引こうと花や犬、自動車、などいろいろと話し掛けても何の反応もしてくれないが、素直に手をつないで黙々と歩く子、途中ダッコして欲しいと駄々をこねる子、虫など見つけて動かない子、自分の行きたい方へ引っ張って行こうとする子、みんなそれぞれの個性があり子供ながらもしっかりと自分の意思を持っているのが感じられる。みんな純真そのもの、生まれたての気持ちをそのまま持ち続けているようだ。３回も続けるとなんとなく気持ちが通ずるようになり、自分の孫のように可愛くなってくる。

１時間あまりの散歩、自分の健康のためにもと楽しみながらのボランティアのひと時を続けている。

それにしても障害児を持つお母さん方の何の屈託もないような明るさに救われる思いがする。